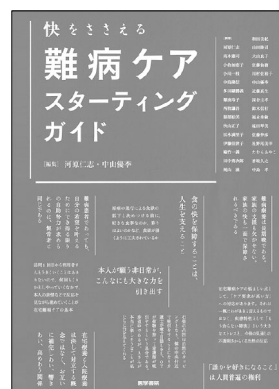


『快をささえる 難病ケアスターティングガイド』 難病ケアに携わる初学者は もちろん、ベテランにも おすすめの書

編：河原 仁志・中山 優季／定価：本体 3,200 円＋税／
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



まず、この本の目次を見て私が感じたことは、「ずっとこういう本を求めていた!」ということである。それは、今日的な話題を軸とした系統だった難病関連の参考書が、これまで出版されていなかったからである。本書の何が今日的かという、それはもちろん1つには新しい「難病法」を基本軸に置いていることである。

第Ⅰ部では、その視点を軸として現代の難病ケアの法的枠組みについて、行政的あるいは経済的側面から語られている。そして本書でもっとも特徴的なのが、第Ⅰ部のなかでも半分にわたるページを割いている「難病の【快】のケア指針」の章である。快食・快便・快眠……，“あたりまえの1日をあたりまえに過ごす”ための【快】のケア、これこそが本書全体の大きなコンセプトでもあり、実に具体的にかつ今日的な視点で書かれている。

また、第Ⅱ部では、看護・介護・リハビリなどの各専門職によるコミュニティケアの実践事例が、第Ⅲ部では、当事者たちの挑戦として、さまざまな難病当事者の生き方が、それぞれ具体的に当事者の言葉で紹介されている。どれもが今日的な話題にあふれ、編集者の著者人選の確かさに敬服する。

そして本書のもう1つの特徴は、随所に挿入されたコラム記事の存在である。難病医療の専門家から当事者に至るまで、さまざまな著者の個性的

な内容の15個のコラム、これらのページだけを拾い読みしても、実に興味深く構成されている。

以上の内容だけでも十分なのだが、しかし、本書において私が個人的に最も興味をもった内容は、最後の第Ⅳ部にこそあった!!

まずは、難病看護を専門とする者にとって、もっともオーソリティとして知らぬ人はいない川村佐和子先生の章である。「難病ケアの始まりの物語」として、スモンに関連するわが国の難病対策の歴史、そして日本難病看護学会の設立に至る歴史が綴られており、これは難病看護を学ぶ者にとっては必読の内容である。そしてそれだけでなく、この章には川村先生の大学受験の頃から若き日のご活躍の様子までが紹介されており、まさに川村ファン垂涎の内容である。

加えて、最後の最後、第16章ではその川村先生の若き後継者の1人、中山優季先生の難病看護に対する思いが、実にわかりやすく綴られている。しかもそれだけでなく、ご自身の高校時代から大学受験、ボランティアやゼミの様子などの青春(?)が、川村先生との出会いを軸に紹介されており、中山先生の難病看護観が、間違いなく川村先生から継承されていることが随所に読み取れる。

本書は、難病ケアに関する初学者のみならず、ベテランにも間違いなくお勧めの一冊である。